

第122回

品質管理シンポジウム

開催要領

テーマ：日本の産業力を高めるために企業が
提案すべき多様化する価値への対応
～社会価値・顧客価値の最大化に向けた
新たな山脈づくり～

2026 年 12 月

主催：一般財団法人 日本科学技術連盟

後援：一般社団法人 日本品質管理学会

本資料は、必要に応じて出力し、当日ご持参ください

品質管理シンポジウム開催趣意書

日科技連は、創立以来その社会的使命にかんがみ主要事業の一つとして、わが国の品質管理の開発とその普及発展につとめてまいりました。今日わが国の品質管理は、関係各方面の方々の強力なご協力のもとに、その成果は広く海外諸国の注目をあびるまでに成長いたしており、まことにご同慶の至りであります。

これは、品質管理のもつ特質が現代のダイナミックな企業経営の要請にまったく合致したものであることが第一の原因と考えられますが、その特質は必ずしも品質管理の先験的な本質として備えられていたものではなく、いわば実践理念として、これを適用・活用することによって品質管理自身の特質が開発されてきたものであり、また、されていくものでありましょう。

当初の生産部門における統計的手法偏重時代から品質管理が経営に直結して、経営内諸機能のそれぞれの目的と運営が品質を中心に統合し、企業目的に直接貢献しようとする今日の品質管理の実情への推移は、品質管理が実践理念としてこれから実施者、推進者の手によって開発され進歩するものであることを如実に物語っております。

しかしながら生産と経営の手段がますます高度化し、一方品質問題が、企業の製品責任に関連してますます重要な中心課題となりつつある今日の情勢において、品質管理がさらに強くその機能を発揮し、企業にますます多くの神益をもたらすためには、経営に高度の計画性が要求されると同様に、品質管理の推進にも対応するビジョンが必要であり、そのためにはまた関係する研究者、指導者、実施者の組織的な協力がなければなりません。

日科技連が、品質管理の今後の発展を希求して、組織的・計画的な総合研究の場“品質管理シンポジウム”を定期的に開催いたしますのは、大要上記の趣旨によるものであります。この事業はわが国の品質管理とともに歩んでまいりました当日科技連のむしろ使命とも考え、提唱・実施するものであります。本シンポジウムに対し、学界ならびに産業界の有志諸氏が広く参加者源泉に加わり、本シンポジウムの発展を見守られ、国際的な存在に育てられるように惜しみなく忠言と鞭撻を寄せられることを希望してやみません。

昭和 40 年 5 月

一般財団法人 日本科学技術連盟

QCS とは品質管理の山を高くする取り組み

品質管理シンポジウム（QCS）は、産業界に広く品質管理の今後の方向性を示す事業として 1965 年に創設され、以来、年 2 回（6 月・12 月）継続して開催しています。

QCS の理念は、「品質管理の山を高くする」ことにあります。これは、品質管理の考え方を普及するだけでなく、新たな発展の方向性を議論し、その可能性を切り拓く場であることを意味しています。

QCS はこの理念に賛同いただいた企業・団体の皆様に、スポンサーシップによる会員としてご参画いただくことで運営されています。会員の皆様の継続的なご支援のもと、産・学・官が連携し、中長期的な視点から品質管理の発展に取り組んでいます。

今後も日本の産業界の発展に貢献するとともに、品質管理のさらなる進化を目指す組織的・継続的な活動の場として、その使命を果たしてまいります。

第122回品質管理シンポジウムのメインフレーム

特別講演 挑戦の先に見えた、日本のこれまでとこれから

(株)FC.ISE－SHIMA 代表取締役 小倉 隆史 氏

基調講演・オリエンテーション

経営環境の変化に対応した企業構造改革

NEC ファシリティーズ(株) 取締役会長 田熊 範孝 氏
イー・アンド・エム(株) 取締役執行役員専務 東 正宜 氏

講演1 生体認証技術の最前線とAI時代の品質管理

日本電気(株) NEC フェロー 今岡 仁 氏

講演2 IoT から AI ファースト経営へ

～デジタル技術と生成AIで進化する旭鉄工の現場改革～

旭鉄工(株)／i Smart Technologies (株) 代表取締役社長 木村 哲也 氏

講演3 品質の再定義：AX時代における『顧客価値』の創出と実現

～DXからAX時代をかじ取りする戦略的アプローチ

立教大学大学院 ビジネスデザイン研究科 客員教授 笠原 英一 氏

講演4 経営におけるブランド戦略と熱量というレバレッジ（仮題）

日本輸入化粧品協会 理事長 菅野 沙織 氏

【ご確認ください！】品質管理シンポジウムご参加にあたって

■用語について

より効果的な議論を行うため、参加の皆様と以下の通り用語の定義と考え方を共有した上で進めます。

■品質 … 顧客及び社会のニーズを満たす度合い

■品質保証 … 顧客及び社会のニーズを満たすために組織が行う体系的活動

⇒「品質」は、モノの出来栄のことではない。

■サービス・ドミナント・ロジック … 価値は、顧客がモノを使いこなすことによって生まれる

※顧客の使用プロセスを含めなければ品質保証は完結しない

■グッズ・ドミナント・ロジック … 価値は、工場出荷時点で「モノ」に備わっている

※提供側のプロセスのみで品質保証は完結する

⇒ハード・ソフトは価値を実現するための道具にすぎず、「価値」は、顧客が道具を使いこなすことによって生まれる。「価値」を考える際は、サービス・ドミナント・ロジックの考え方を念頭におき、「顧客は何かできれば喜ぶのか？」という着眼点で考える。

■コト価値の考え方…顧客の求めるコト価値を実現するという事は「顧客が行う価値創出プロセスを支える」ことである。

提供する価値が“モノ”か“コト”かと言った分け方ではなく、お客様が求めるコト価値を直接的に支援するソリューション型のビジネスがある一方で自社の提供するモノの価値でお客様のコト価値を具現化するビジネスもあり得る。

つまり、価値提供側としては自社提供の優れたモノ価値を顧客のコト価値創出手段とする事もあるスタンスで議論を進めて頂きたい。

■討論内容およびアンケート結果の利用について

本シンポジウムにおけるグループ討論（GD）～本シンポジウムでの討論内容（総合討論・GD）およびアンケート結果は、当財団運営の研究会や報告書等に利用させていただくことがございます。

その際は、個人および企業の機密を厳守するため、情報の匿名化や編集を適切に行います。

ご承知の上、参加くださいますようお願いいたします。

第122回品質管理シンポジウム プログラム

テーマ：日本の産業力を高めるために企業が提案すべき多様化する価値への対応
～社会価値・顧客価値の最大化に向けた新たな山脈づくり～

開催期間：2026 年 12 月 3 日 (木) 14:00 ～ 12 月 5 日 (土) 12:00

会場：大磯プリンスホテル

月 日	時 間	科 目	講演者（敬称略）	ライブ 視聴	見逃し 配信
12 月 3 日 (木)	14:00～14:15	開会・組織委員紹介			
	14:15～15:25	<特別講演> 挑戦の先に見えた、日本のこれまでとこれから	小倉 隆史 (株)FC.ISE – SHIMA 代表取締役	○	○
	15:25～15:45	<質疑応答>			
	15:45～15:55	休憩			
	15:55～16:35	<基調講演・オリエンテーション> 経営環境の変化に対応した企業構造改革	田熊 範孝 NEC ファシリティーズ(株) 取締役会長 < 122QCS 主担当組織委員 > 東 正宜 イー・アンド・エム(株) 取締役執行役員専務	○	○
	16:35～16:45	<質疑応答>			
	16:45～16:55	日科技連事業紹介			
	16:55～17:00	事務連絡			
	17:00～18:30	チェックイン・休憩・夕食			
12 月 4 日 (金)	18:30～20:00	GD (1)・談話室			
	8:25～ 8:30	主催者挨拶	小笠原 浩 (一財) 日本科学技術連盟 理事長	○	
	8:30～ 9:20	<講演 1> 生体認証技術の最前線と AI 時代の品質管理	今岡 仁 日本電気(株) NEC フェロー		○
	9:20～ 9:30	<質疑応答>			
	9:30～ 9:35	入替 (5 分)			
	9:35～10:25	<講演 2> IoT から AI ファースト経営へ ～デジタル技術と生成 AI で進化する旭鉄工の現場改革～	木村 哲也 旭鉄工(株)／ i Smart Technologies (株) 代表取締役社長	○	○
	10:25～10:35	<質疑応答>			
	10:35～10:45	休憩 (10 分)			
	10:45～11:35	<講演 3> 品質の再定義：AX 時代における『顧客価値』の 創出と実現 ～ DX から AX 時代をかじ取りする戦略的アプ ローチ	笠原 英一 立教大学大学院 ビジネスデザイン研究科 客員教授	○	○
	11:35～11:45	<質疑応答>			
	11:45～12:35	昼食 (50 分)			
	12:35～13:25	<講演 4> 経営におけるブランド戦略と熱量というレバ ラージ (仮題)	菅野 沙織 日本輸入化粧品協会 理事長	○	○
	13:25～13:35	<質疑応答>			
	13:35～13:55	グループ討論会場へ移動・休憩			
	13:55～17:45	GD (2)			
12 月 5 日 (土)	17:45～18:00	休憩			
	18:00～19:15	夕食 (パーティー)			
	19:15～20:15	談話室			
	8:30～10:00	GD 報告 (10 分× 8 班 ※予備 10 分)	司会：田熊 範孝 報告：各班リーダー	○	○
	10:00～10:15	休憩			
	10:15～11:35	総合討論	田熊 範孝 123QCS 主担当組織委員		
12 月 5 日 (土)	11:35～11:50	第 122 回 品質管理シンポジウム まとめ			
	11:50～12:00	次回 (第 123 回) 品質管理シンポジウム案内			
	12:00～	昼食・解散			

※ GD はグループ討論の略称です。

※組織名・役職名は 2026 年 6 月時点の表記です。

※テーマ及びプログラムは変更になる場合があります。

第122回品質管理シンポジウム(122QCS) グループ討論

122QCS グループ討論

GD テーマ、主旨と論点

※敬称略

※組織名・役職は2026年9月現在の表記になっております。

製造業の経営における多様化する価値への対応

西 敏明(岡山商科大学 経営学部 教授), 岩佐 伸勝(株ジーシー GQM推進室長)

第1班

令和の大機宣言に加え、2024年版「ものづくり白書」では、製造業の目指すべき姿として「事業機会の拡大に向け、アフターサービスなどのサブスクリプションサービスやプラットフォームビジネスの展開など、ものを作って売るだけではなく、ものづくりに関するビジネスモデルの変革が必要」と示されています。実際、多くの企業が、ハードの販売中心からソリューション事業・メンテナンス事業へのシフト、大量生産から多品種少量生産への転換、M&Aなどによる事業領域の拡大を進めています。第1班では、こうした潮流を踏まえ、各社が直面する顧客価値・社会価値の多様化を正しく捉えたうえで、価値創造につながる事業戦略をいかに策定・実行するか、その具体的なプロセスを議論します。

論点
①日本の製造業が創造すべき顧客価値・社会価値はどのように多様化しているか
②多様化する価値に対して、製造業がとるべき事業戦略は何か
③事業戦略最適プロセスにおいて、変えなくてよいこと、改良が必要なこと、クリエートが必要なことは何か

中堅・中小企業・スタートアップなどの経営における多様化する価値への対応

村上 啓介(関西大学 商学部 教授), 花崎 雅彦(まちかど改善塾 代表(元住友理工(株) 取締役CQO))

第2班

コスト競争のレッドオーシャンから脱するには、過度な大企業依存を避け、自ら事業機会を拡大する戦略の策定・実行が重要です。そのためには、直接の顧客だけでなく、その先の顧客やエンドユーザーのニーズ、ひいては顧客価値・社会価値の変化を的確に把握し、それらを見据えた事業戦略を構築する必要があります。第2班では、中堅・中小企業およびスタートアップなどを対象に、価値の多様化をどう捉え、大企業とは異なるどのような戦略で対応すべきか、具体的な手立てを議論します。

論点
①製造業の中堅・中小企業・スタートアップなどは、顧客およびその先の顧客の顧客価値・社会価値の多様化・変化をどのように把握・分析するか
②多様化する価値に対して、中堅・中小企業・スタートアップならではの事業戦略は何か
③知財の取り扱いや契約上の不均衡(例:無制限賠償[いわゆる青天井])を是正するために、日本として取り得る方策は何か

サービス業・製造業によるサービス事業における、多様な価値の創造

水流 聡子(東京大学 総括プロジェクト機構 特任教授), 鈴木 浩佳(トヨタ自動車(株) 生産技術統括部 主査)

第3班

サービス産業の比率が一段と高まる中、製造業においても、これまで培ってきた品質経営の知見をソリューションなどのサービス事業へ展開する動きが広がっています。そこでGD3班では、国内外の先進事例や参加企業の取り組みを参考に、サービス業および製造業によるサービス事業における多様な価値創造のあり方について下記の流れで議論します。まず初めに、顧客・社会の多様化した期待・ニーズをどのように捉えるべきかを考察します。続いてそれらに応えるための事業戦略の方向性を検討し、さらに戦略実現を支えるプロセス、組織能力・しくみの構築・運用について議論します。なお、検討にあたっては第121回品質管理シンポジウムGD8班でも活用した、日本が国際標準化を主導する「サービスエクセレンス」のフレームワークを参照するとともに、その成果物も一部活用します。また生成AIとの壁打ちを通じて、検討結果をブラッシュアップする機会も設定します。皆様との活発な議論を楽しみにしております。

論点
サービス事業における、
①顧客・社会の、多様化した期待・ニーズの捉え方
②多様な期待・ニーズに応える、事業戦略策定の在り方
③事業戦略実現を支えるプロセス、組織能力・しくみの構築・運用

多様化する価値を踏まえた日本企業の競争力強化と企業間連携について

米岡 俊郎(株P&Qコンサルティング 代表取締役(元トヨタ自動車九州(株) 専務)), 尾本 勝彦(元ハナソニック(株) 品質・環境本部 本部長)

第4班

顧客・社会に対する新たな価値の創造や課題解決には、バリューチェーンに多様なプレーヤーが参画しそれぞれの強みを生かして連携することが不可欠です。一方で参画する主体が増えるほど、企業・機能間の連携は複雑化し、場合によっては利害の対立や利益相反といった課題も生じます。具体的には、顧客との共創ネットワーク、特許の相互開示、インターフェースの共通化・標準化や情報共有、サステナビリティを軸とした循環型連携、設備・人材の共同投資・共同活用、産学連携によるスタートアップとの共創など、様々な形態が考えられます。

第4班では、多様化する価値に応えるためのバリューチェーンを構築する上で、どのような企業間連携が必要なのか、またその実現に向けた課題と対応策は何か、について議論します。併せて企業間連携という視点から、これからの日本企業の競争力強化に向けて、従来のTQMについて「変えなくてよい点」「改良が必要な点」「新たな創出が必要な点」は何か、についても考えていきます。

論点
①企業間連携が機能している好事例と、その成功要因について
②価値創造に資するバリューチェーン構築に必要な企業間連携の要素について
③企業間連携に伴う課題(利益相反など)と、その対応策について

多様化する価値に応える組織プロセス-PDCA-OODAを補完する予測型経営

松村 喜弘(キャディ(株) エンタープライズ事業本部 ソリューション1部 部長), 安藤 淳二(株ジェイテクト イノベーション本部 副本部長)

第5班

VUCA時代と言われて久しい今日、地政学とグローバル供給網の再整備、AI技術と人的資本の見直しなど経営を取り巻くリスクが多様化しており、事後の対策では間に合わない領域が増えています。一方で、不確実性は事業機会でもあり、的確に将来を見通し、先手を打つために、予測の重要性が問われます。そのなかで、業務全体を大きく捉えて改善するPDCA、顧客のプロセス遂行に寄り添い価値創出を支援するOODAを補完し、予測との差異を検知して適正に修正を加えるプロセスとしてP-MORが目玉されています。ここでの予測は意思の代替ではなく、どこまで挑みどこで切り替えるかを先に決め、意思を持続させる仕組みです。

第5班では、P-MORを①事業戦略、②機能間連携、③業務遂行の三層で一気通貫に回す視点から実用化の課題と対応策を議論します。

注記 P-MOR: Prediction(リスクの予測と修正案の準備)→Monitor(予測との差異の検知)→Orient(状況判断)→Revision(修正案の選択と実行) OODA: Observe(観察)→Orient(状況判断)→Decide(意思決定)→Act(実行)

論点
①【事業戦略】挑戦の前提が崩れる兆候をどう予測し、撤退・加速の閾値をどこに置くか
②【機能間連携】部門間の「壁」自体をリスクと捉え、誰の責任でどう除去するか
③【業務遂行】将来のリスクをどう捉え、日常活動に落とし込むか

変化への適応と価値創造を実現するリソースマネジメントと人材育成

竹本 康彦(早稲田大学 創造理工学部 教授), 寺井 哲治(寺井人間研究所 代表社員)

第6班

企業では、少子高齢化やバブル期入社世代の大量退職により、急速にリソース不足が進む一方で、経営環境の変化や働き方改革の推進を背景として、仕事に対する価値観も大きく変化しています。また、多様化する価値観に対応するため、組織のあり方にも変革が求められています。こうした環境変化や価値観の多様化に対応し、新たな価値を創出できる組織へ転換する鍵となるのがリソースマネジメントです。人・知的資産・設備・資金の配分原則を「効率最優先」から「価値創出・レジリエンス・適応力重視」へ転換することが求められます。また、新事業を生み出す意思決定の枠組み、知的資産の見える化・共有・継承の仕組み、社内外の知識にアクセスするネットワークの構築、人材の流動化を支える組織文化の醸成など、価値創出を支える基盤づくりも不可欠です。第6班では、変化に適応し、価値創造を実現するためのリソースの調達・配分・活用・育成を、いかに設計・運用すべきかについて議論します。

論点
①変化に対応し、価値創造を実現するために、知的資産のマネジメントと人材育成はどうあるべきか
②人と知的資産の相互作用によって価値を創出するために、知的資産を誰がどのようにマネジメントすべきか
③AI・DXを活用した新たな価値創造を推進するために、環境づくりと人づくりを支える仕組みをいかに構築すべきか

品質活動やサプライチェーンにおけるAI・DXの利活用

泉井 一浩(京都大学大学院 工学研究科 教授), 小林 寛嗣(日本電気(株) ビジネスプロセストランスフォーメーション部門 シニアマネージャー)

第7班

製品の複雑化、顧客要求の高度化、規制強化、需給変動・地政学リスクの増大、人材不足の深刻化により、品質活動とサプライチェーン運営の高度化が急務です。AI・DXは現場データの活用を通じて、不良・ムダの削減、トレーサビリティ強化、リードタイム短縮、レジリエンス向上を実現し、競争力と収益性を同時に高める鍵となります。壁打ちや議事録作成といった個人レベルの効率化は既に広がっていますが、次の段階は、人がAIを補助的に使う働き方から、業務プロセスそのものをAI前提で組み直す形へと移ることにあります。そこで扱うAIは生成AIに限らず、業務特化型AIからLLM、AIエージェント、フィジカルAIへと広がります。第7班では、「AI×人」で新たな価値を創出する視点から、日本企業が自らの強みを活かしてこの変化をどう進めるべきかを、具体的なユースケースの選定と、導入に向けた障壁・リスクの整理を通じて議論します。

論点
①業務効率化に留まらず、業務の再設計を促すAI・DXのユースケースは何か
②AI・DX導入に向けた障壁とリスクは何か
③AI・DXを活用し業務の再設計を行う場合、変えなくてよいこと、改良が必要なこと、クリエートが必要なことは何か

加速する少子高齢化時代におけるノウハウ継承と知識創造をいかに実現するか

石津 昌平(青山学院大学名誉教授), 堤 雄亮(株ペイカレント・コンサルティング シニアエキスパート)

第8班

少子高齢化の進行により、労働力人口の縮小、退職ピークの到来、スキルミスマッチの拡大が企業活動と人材育成に直接影響しています。熟練人材の引退で暗黙知の喪失リスクが高まる一方、短期間での習熟・多能工化・デジタル対応が求められています。

その担い手として現場に加わりつつあるのが、AIを日常的に使いこなすAIネイティブの世代です。AIとの共生を前提とした価値観やスキル(デジタルリテラシー、AIツールの活用能力)を持ち、情報収集や意思決定、学習スタイルには従来世代と異なる面もあります。また、AIが人を支える手段の幅も、知識の蓄積・活用を担うAIから、動作や感覚の領域を支えるフィジカルAIまで広がっています。

ノウハウは受け継ぐだけでは持続可能な組織運営に至らず、受け継いだ知を土台に新たなノウハウを生み出す循環が必要です。第8班では、少子高齢化に伴い実際に直面する課題を深掘りし、持続可能な組織運営とノウハウの継承・知識創造に向けて、異なる価値観やスキルをもつAIネイティブ世代との協働方法などを制度・技術・文化などの観点から幅広く議論します。

論点
①少子高齢化に伴う課題・リスクは、大企業・中堅・中小企業・サービス業でどう異なるか
②異なる価値観やスキルをもつAIネイティブ世代との協働方法は何か
③これらを踏まえ、少子高齢化時代において持続可能な組織運営とノウハウの継承・知識創造に向けた対策はどう行うか

集合参加の皆様へ

(1) 開催までの流れ

お申込み後、シンポジウム参加者様へのご連絡は、株式会社ファシオが運営するDeliveru（プラットフォーム）よりメール送信させていただきます。

10月22日頃	GD参加班決定連絡およびGDコミュニケーション(班専用チャットルーム)開始
11月19日頃	品質管理シンポジウム開催案内・報文集DL用ID/PWDご連絡
11月30日頃	品質管理シンポジウム開催の最終案内
12月2日	報文集DL用ID/PWDご連絡メールの再送（最終ご案内）
12月3日14:00～	第122回品質管理シンポジウム開催

※シンポジウム資料（報文集・GD報告資料など）は、Deliveruよりダウンロードいただきます。
詳細は11月19日頃にDeliveruよりお送りするメールをご確認ください。

グループ討論（GD）参加者

GDご参加の皆様は、品質管理シンポジウム開催日より前から、グループ討論がスタートします。これは、シンポジウム当日の限られた時間の中で、討論をスムーズに進行していくための事前準備という位置づけです。

10月22日頃	事務局よりGD参加希望者宛に「GD班決定連絡とメンバー自己紹介のお願い」メールを送信します。メールが届きましたら以下ご対応ください。 ① ご案内URLから「班専用チャットルーム」にログインしてください。 ② チャットルーム内に掲載の「GDメンバーリスト（自己紹介フォーム）」を確認し、自己紹介欄に入力をお願いします。 ③ 必ず1度はチャットルームでの発言をお願いします（挨拶でも結構です）
---------	--

(2) 開催日当日ご準備いただくもの（シンポジウムご参加の皆様）

服 装：

- 1) 楽な服装でご参加いただいて結構です。
- 2) シンポジウム1日目の夕方にお渡しする名札は、会期中常に着用ください。
- 3) マスク着用は、個人の主体的な選択を尊重し、個人の判断に委ねます。

持 ち 物：

- 1) 名刺（50枚程度）
- 2) 筆記用具
- 3) ノートPCまたはタブレット端末など
 - ・その他（あると便利）：ポケットWi-Fi
 大磯プリンスホテルには無料Wi-Fiもごさいますが、場所によってはWi-Fi電波が弱かったり、アクセスが集中すると通信速度が遅くなる可能性もありますため、お持ちいただけると安心です。

会場のご案内（１日目）

12 月 3 日 (木)	大磯プリンスホテルまでの交通機関 タクシー：大磯駅から約7分（1,800円程度）、小田原駅から30分（約5,400円） 路線バス：「平47 二宮南口行」「磯13 西公園前行」「磯13 大磯駅行（湘南大磯住宅循環）」にて「大磯プリンスホテル入口」バス停下車。そこからホテルまでは徒歩約7分 送迎バス：大磯駅発→大磯プリンスホテル行（マイクロバス定員21名）運行。 （※ 詳細は別紙をご参照ください）	
	13:00～ 受付開始	<u>シンポジウム受付は客室棟1Fのロビー</u> 受付で資料をお受け取りいただき、会場（メインバンケットホール）へお入りください。
	14:00～17:00 開会 特別講演 基調講演	<u>メインバンケットホール</u> 場内のお席は、組織委員や講演者等の席を除き自由席です。 会場入口に「ネームプレート（立札）」をご用意しておりますので、お席確保等にご活用ください。
	17:00～ 休憩 チェックイン	<u>受付（客室棟1Fロビー）</u> 名札とお部屋のカードキーを受付に並べておりますので、各自お取りください。
	17:00～19:30 夕食 提供時間	<u>「かもめ」※メインバンケットホールの隣</u> GDご参加の方は18:30までにご夕食をお済ませください。 ※参加申し込みの際にアレルギーをご申告いただきました方は、ホテル係員にお声かけください。
	18:30～20:00 GD(1)・談話室 【GD参加者のみ】	<u>各GD会場（※当日ご案内）</u> GD参加者はGD（1）に続いて、GDメンバー相互の親睦と情報交換の場として、飲み物とおつまみを各班にご用意しております。

会場のご案内（2日目）

12月4日（金）	6：30～8：30 朝食	「かもめ」※メインバンケットホールの隣 時間に余裕をもってお越しください。
	8：25～11：45 主催者挨拶 講演1～3	メインバンケットホール 場内のお席は、組織委員や講演者等の席を除き自由席です。 「ネームプレート（立札）」をお席確保等にご活用ください。
	11：45～12：35 昼食	「かもめ」※メインバンケットホールの隣 到着順に奥の席からご着席いただくようホテル係員がご案内いたします。 ※参加申し込みの際にアレルギーをご申告いただきました方は、ホテル係員にお声がけください。
	12：35～13：35 講演4	メインバンケットホール 講演4終了後に会場のレイアウト変更を行いますので、お荷物をすべてお持ちになり次のプログラムへご移動ください。
	13：55～17：45 GD（2） 【GD参加者のみ】	各GD会場 （※1日目と同じ会場）
	18：00～19：15 懇親会（夕食）	メインバンケットホール
	19：15～20：15 談話室	「かもめ」※メインバンケットホールの隣 参加者相互の親睦と情報交換の場として、飲み物とおつまみをご用意しております。（自由参加）
	19：15～ GD報告資料作成 【GDリーダー記録のみ】	各GD会場 GDリーダーと記録係は、3日目GD報告資料の作成をお願いします。

会場のご案内（3日目）

12月5日(土)	6:30～8:30 朝食	「かもめ」※メインバンケットホールの隣 時間に余裕をもってお越しください。
	8:00～ GD 報告資料配付	<u>Deliveru よりダウンロードしてください。</u> GD 報告資料は、デジタル配付となります。 当日の朝、Deliveru にアップロードいたしますので、各自ダウンロードしてください。またホワイエ、会場内に QR コードを掲示しますので、モバイル端末からでもご覧いただけます。
	8:00～10:15 チェックアウト	<u>ホワイエ ※メインバンケットホール入口</u> カードキー返却ボックスがございますので、3日目プログラム開始前を目途にご返却ください。 *お部屋精算がある場合は、ホテルフロントで直接お願いいたします。 *手荷物は会場メインバンケットにお持ちいただき、貴重品管理はご自身でお願いいたします。
	8:30～12:00 GD 報告 総合討論	<u>メインバンケットホール</u> 場内のお席は、組織委員や講演者等の席を除き自由席です。 「ネームプレート（立札）」を席確保等にご活用ください。
	12:00～ 昼食	「かもめ」※メインバンケットホールの隣 到着順に奥の席からご着席いただくようホテル係員がご案内いたします。 ※参加申し込みの際にアレルギーをご申告いただきました方は、ホテル係員にお声かけください。
大磯プリンスホテルからの交通機関 ①シンポジウム終了後、QCS 企業・団体会員の参加者向けに大磯駅行のマイクロバスを運行いたします。 ②大磯駅に向かう路線バス 「大磯プリンスホテルバス停」（ホテルより徒歩7分）もご利用ください。 ③タクシーをご利用の方は、ホテルフロントに直接お申し出ください。		

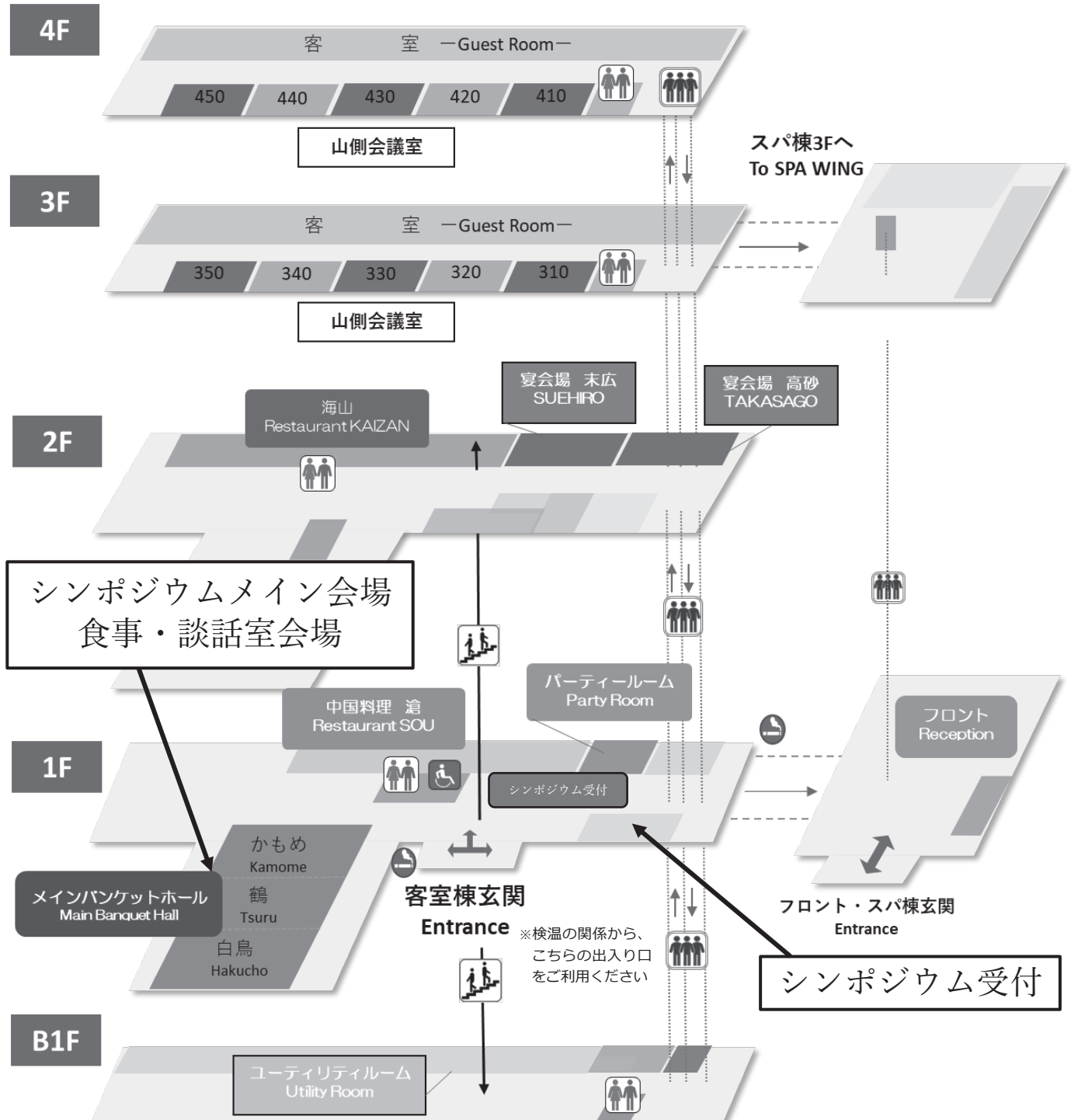
大磯プリンスホテル 会場案内図

集合参加の皆様へ

〒259-0193 神奈川県中郡大磯町国府本郷 546

TEL : 0463-61-1111

客室棟



グループ討論 (GD) 会場

※ 3F・4Fの山側会議室、2F宴会場「末広」「高砂」、B1「ユーティリティルーム」を使用します。

※ 会場となる会議室はシンポジウム当日ご案内いたします。

ライブ視聴参加の皆様へ

インターネットを介しお手持ちのPCやタブレット端末等で、特別講演・基調講演（1日目）、講演1～4（2日目）、GD報告・総合討論（3日目）をライブ視聴いただけます。

※ライブ視聴参加の場合は、グループ討論（GD）にはご参加いただけません。

※1IDにつき1参加者となります。複数名でのご視聴はできません。

開催までのスケジュール

11月12日	品質管理シンポジウムライブ視聴参加のお申込み締切
11月19日	品質管理シンポジウム開催案内・ご視聴用ID/PWDご連絡
11月30日	品質管理シンポジウム開催の最終ご案内メール送信
12月2日	参加者様へ Deliveru より ID/PWD ご連絡メールの再送（最終ご案内）
12月3日 14:00～	第122回品質管理シンポジウム開催

ライブ配信は、株式会社ファシオが運営するDeliveru（プラットフォーム）を使用したストリーミング配信で行います。

報文集は、動画視聴サイトDeliveruの各イベントページ内にあります「資料ダウンロード」タブよりダウンロードしてください。

※当日に視聴できないとお問合せを頂戴した場合、対応できない場合がございます。

必ず事前に、以下の視聴テストサイトで推奨環境に適合しているか、動画の視聴において映像・音声再生されるかを確認してください。

<https://deliveru.jp/pretests/video>
ID/PWD：livetest55

※視聴テストサイトでは、2つの動画が連続で再生されます。必ず、それぞれの映像と音声が行き届くかをご確認ください。

※推奨環境は、以下をご覧ください。

<https://deliveru.jp/faq/#Q7>

開催当日（参加中）の通信トラブル等に関するお問合せは下記までご連絡ください。

TEL：080-1709-9977（会期中のみ）

E-mail：qcs@juse.or.jp

「見逃し配信」について

ライブ視聴参加の特典として、許可いただいた講演および3日目プログラム（GD報告・総会討論など）の動画をシンポジウム翌週12月9日（水）13:00～1週間の期間限定にて「見逃し配信」にてご視聴いただけます。

ライブ視聴参加者へは、シンポジウム終了後、準備が整い次第、事務局よりメールにてご案内いたします。

その他ご案内

参 加 方 法	●集合参加……会場（大磯プリンスホテル）にてシンポジウムの全プログラムに参加可能 ●ライブ視聴参加…インターネットを介し PC やモバイル端末等で、特別講演、基調講演・オリエンテーション（1 日目）、講演 1 ～ 4（2 日目）、GD 報告、総合討論（3 日目）が視聴可能 ※ライブ視聴参加の場合、GD へは参加できません。 【シンポジウム申込方法】 QCS 専用 WEB サイトよりお申込みください。 https://www.juse.jp/qcs/
参 加 費 *日科技連よりご請求書を発行いたします。	● QCS 企業会員／団体会員 参加方法に関わらず、企業会員はトップ枠・通常枠の 2 名分、団体会員は通常枠の 1 名分の無料枠をご利用いただけます。 トップ枠を使用されない場合、無料枠は通常枠の 1 名分のみとなります。 無料枠以外にもご参加される場合は、集合参加、ライブ視聴参加共に、57,200 円／1 名となります。 ●一般参加 ライブ視聴参加のみ、132,000 円／1 名にてご参加可能です。 ●団体参加（ライブ視聴参加のみ） シンポジウム各講演（1 ～ 2 日目）、GD 報告・総合討論（3 日目）を経営幹部、関係部署の方々、多くの方々にご視聴いただく場合に、ご利用しやすい参加形態です。 50 名まで …………… 550,000 円 51 ～ 100 名まで …… 880,000 円 101 ～ 200 名まで … 1,100,000 円 ※ 201 名以上の場合は、品質管理シンポジウム担当までお問合せください。 ●招待討論者 集合参加にて、シンポジウムすべてのプログラムにご参加いただけます。 ※招待討論者は、シンポジウムの GD や総合討論を活発にするため、広く産・官・学より品質管理・TQM、顧客価値創造等に造詣の深い方々をお招きしております。参加費は頂いておりません。 【参加費に含まれるもの】 集合参加者の 1 日目夕食、2 日目昼食・夕食、3 日目昼食 ※ 2 日目・3 日目の朝食については宿泊費に含まれております。 【請求書について】 参加費の請求書は、シンポジウム開催の 1 ヶ月前を目途に順次お申込みのご連絡担当者宛にメールにてお送りいたします。 お振込期限は請求書発行日より 2 ヶ月以内となります。 【キャンセル・返金について】 参加形態に関わらず、開催日の 5 営業日前（11 月 26 日 17 時）までキャンセルが可能です。 それ以降（直前および当日）のキャンセルについては、有料枠でお申込みの場合でも参加費の返金は致しかねます。 ただし、5 営業日前を過ぎて「集合参加」をキャンセル、または当日欠席される場合は、「ライブ視聴参加（見逃し配信あり）」へ振替させていただきます。

その他ご案内（集合参加）

交通費	● QCS 企業会員・団体会員 ご自弁願います。 ● 招待討論者 別途ご案内の通り								
宿泊費 * (株) ジャパトラ よりご請求書を 発行します。	● QCS 企業会員・団体会員 1 人部屋（2 泊 56,000 円）* 朝食付き、消費税・入浴税・サービス料込 ※ 1 部屋（ツインルーム）をお一人でお使いいただきます。 ● 招待討論者 別途ご案内の通り ● 取消料 旅行開始の前日から起算してさかのぼって： <table> <tr> <td>① 11月26日（木）17：00 より前の解除</td><td>－ 無料</td></tr> <tr> <td>② 11月26日（木）17：00 以降～ 12月2日（水）17：00 より前の解除</td><td>－ 旅行代金の 20%</td></tr> <tr> <td>③ 12月2日（水）17：00 以降の解除（④を除く）</td><td>－ 旅行代金の 50%</td></tr> <tr> <td>④ 旅行開始後の解除又は無連絡不泊</td><td>－ 100%</td></tr> </table> ● 請求書について 請求書は、以下スケジュールに沿って申込時の連絡担当者様宛に順次 メールにてお送りします。 お振込み期日に余裕をもったお申込みをいただきますようお願い申し上 げます。 ● 11月3日迄のお申込み→お申込日より2週間以内に発送 ● 11月4日～18日のお申込み→お申込日より3日以内に発送 ● 11月19日以降のお申込み→お申込日より3日以内に発送 ➡ 11月26日(木)までに お振込みください 指定された期日までに お振込みください	① 11月26日（木）17：00 より前の解除	－ 無料	② 11月26日（木）17：00 以降～ 12月2日（水）17：00 より前の解除	－ 旅行代金の 20%	③ 12月2日（水）17：00 以降の解除（④を除く）	－ 旅行代金の 50%	④ 旅行開始後の解除又は無連絡不泊	－ 100%
① 11月26日（木）17：00 より前の解除	－ 無料								
② 11月26日（木）17：00 以降～ 12月2日（水）17：00 より前の解除	－ 旅行代金の 20%								
③ 12月2日（水）17：00 以降の解除（④を除く）	－ 旅行代金の 50%								
④ 旅行開始後の解除又は無連絡不泊	－ 100%								
宿泊の部屋割	部屋割は事務局に一任とさせていただきます。								
その他	① 所定の食事以外の飲食・電話・マッサージ等個人的な費用はご自弁願います。 ② 食事メニューは事務局に一任させていただきます。 ※ 記載金額はすべて税込みとなります。								

【シンポジウムに関するお問合せ】

一般財団法人日本科学技術連盟 品質管理シンポジウム担当
 〒163-0704 東京都新宿区西新宿 2-7-1 新宿第一生命ビルディング 4 階
 TEL：03-5990-5846 E-mail：qcs@juse.or.jp

【ご宿泊に関するお問合せ】

株式会社ジャパトラ QC デスク 担当：柏木、鶴川
 〒161-0033 東京都新宿区下落合 3-21-1 NK フジビル 8 階
 TEL：03-6915-3646 E-mail：qcdesk@japatra.co.jp

参加者のみなさまへ

日科技連では「あらゆる人権問題の解決は企業の社会的責任である」として人権啓発活動に取り組んでおります。この考え方にに基づき、下記のとおり「人権問題に関する発言ガイドライン」を設けております。参加者のみなさまにおかれましても是非ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

Ver.1

事業実施における人権に関する発言ガイドライン

I. 事業実施における人権基本姿勢

1. 互いの人権が尊重され、一人ひとりが積極的に参画できる場を創る
2. 人権に配慮した表現・行動を目指す
3. 人権を侵害するような事実が確認された場合は、厳しい処罰を行う
4. 人権侵害の発生を防止するため、適切な予防活動を行う

II. 表現・発言における注意点

- ・ジェンダー、障がい、疾病、職業、国籍、出身地、容姿などに対する差別的な表現の排除
例)「人夫」「特殊部落」「バカチョン」「ジブシー」
 - ・同問題に対し、悪意の有無に関わらず相手が不快に感じる可能性の高い表現の置き換え
例)「めくら判」「片手落ち」「間違いに刃物」「女性や初心者でも手軽に」
 - ・その他、特定団体や特定個人に対する誹謗中傷
- *不適切発言には、わかりやすく（面白く）伝えようとし、揶揄的な表現、例えばなし、個人の価値観の押し付けなどにより、相手に不快感や誤解を与えてしまう場合が多く見られます。

III. セクシュアルハラスメントについて

- 「行為を受けた人がその行為に対して、どのように感じるか」が判断基準となります。行為者に悪気がない、良かれと思って行った、としても相手が不快に感じればセクシュアルハラスメントに該当します。
- ・男女間の意識のズレ
「これくらいは大丈夫だろう」「相手も許容する準備があった」と思うのは行為者の誤った認識からでの解釈です。女性（或いは男性）参加者が少ない場では特に、マイノリティへの配慮をお願いします。
 - ・固定的な性別役割分担意識
未だに補助的な作業を女性に任せる男性優位意識が散見されます。女性側の意識変革も求められますが、女性というだけで常にサポートに回ることがないよう、ご配慮ください。

※ 会場での行き過ぎた営業活動、所属団体の宣伝等も、不信感に繋がりますので、お控えくださいますよう、よろしくお願いいたします。

以上

一般財団法人日本科学技術連盟

大磯駅から大磯プリンスホテルへ送迎案内

別紙

大磯駅から大磯プリンスホテルまで

① ホテルマイクロバス送迎サービス

第1便：12:40 大磯駅 ⇒ 大磯 PH 客室棟
第2便：13:00 大磯駅 ⇒ 大磯 PH 客室棟
第3便：13:15 大磯駅 ⇒ 大磯 PH 客室棟
第4便：13:40 大磯駅 ⇒ 大磯 PH 客室棟
第5便：13:45 大磯駅 ⇒ 大磯 PH 客室棟
※各便21名定員となります。先着順となりますため、
乗りきれないお客様は以下②③をご利用ください。

② 路線バス

バス停1および2よりご乗車ください。

③ タクシー

大磯駅から約7分（約1800円） ※交通状況により変動いたします。



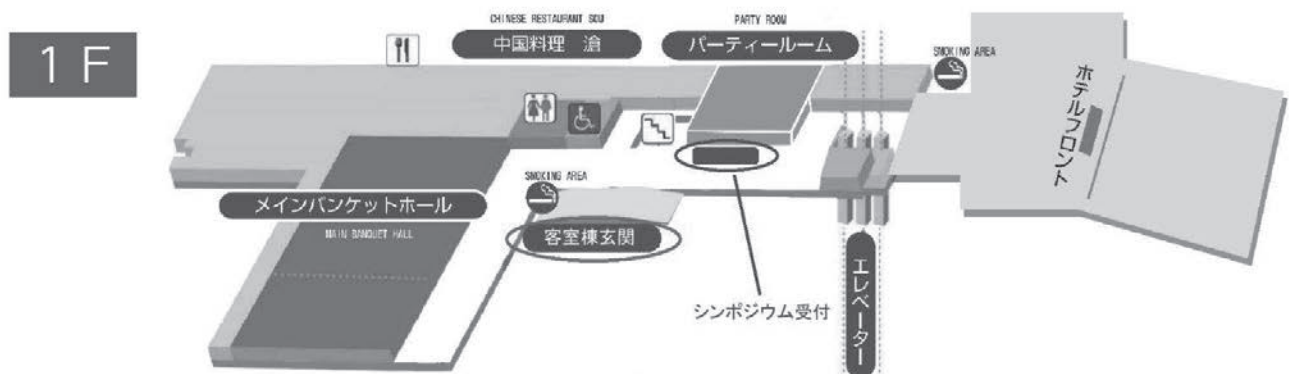
大磯プリンスホテル 会場案内図

(〒259-0193 神奈川県中郡大磯町国府本郷 546)

シンポジウム開始日時：12月3日（木）14時00分～ シンポジウム開催

受付開始時間：13時00分～（20時00分）

※20:00以降、受付はホテルフロントで行いますので、ご到着が遅れる場合はホテルフロントへお越しください。



ご来場の際は、案内図に記載の「客室棟玄関」からお入りください。

本シンポジウムに関するお問い合わせ先：

一般財団法人 日本科学技術連盟 QCS 担当

TEL：03-5990-5846（土日を除く）・080-1709-9977（会期中12/3～5）

E-mail：qcs@juse.or.jp